

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1192500351		
法人名	医療生協さいたま生活協同組合		
事業所名	グループホームさんどめ		
所在地	埼玉県所沢市中富1622		
自己評価作成日	令和6年3月5日	評価結果市町村受理日	令和6年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和6年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・自前調理を継続し、回数も増やせるようになっている。 ・隣接している老健の看護師、リハビリ職員と連携し、利用者の状態の評価、傷の処置などを行っている。 ・利用者が希望するときにタイムリーに散歩に行くことが出来る。 ・隣接している老健のマシンを利用し、利用者のADL維持向上を目指している。 ・入居者と地域の活動に出かけている。（お祭り、麻雀、旗振り当番） ・エレベーター解除の為、他事業所と連携を進めている。 ・生活リハビリに力を入れ、洗濯、調理、下膳など行える入居者が増えてきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・「生協10の基本ケア」に基づき、常に入居者最優先の考えに立ち、やるべきことをきちんと行い、やり方の統一を図りながら、入居者の生活を守るよう取り組まれている。特に今まで実施されてきた「自前調理」などには入居者の関わりを増やし、メニューを考えたり、材料の買い物などに参加され、入居者・家族から好評を得られている。さらに事業所内のエレベーターのカギの開放にも取り組まれ、他部署との連携を図り、入居者の自由な動きの確保にも努められている。 ・運営推進会議は、事業所と外部との情報交換の場とされ、事業所からは様々な取り組み、ヒヤリハットや事故の報告などが出され、参加者の民生委員からは地域の情報をいただくなど、運営にも活かされている。 ・目標達成計画については、令和4年度は厚労省通達要件を満たし、外部評価は免除されたものの、入居者の状況を家族に伝えることに取り組まれ、「さんどめほーむだより」を作成し、職員が入居者の状況について原稿を書くなど、写真も含めて入居者の様子が伝わり、家族からも好評価が得られたことから目標が達成されている。
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	部会や勉強会を通じて再確認し、理念を共有して実践につなげている。	職員個々のやり方を尊重しながら、事業所の目指す方向性を確認し合い、理念に沿った支援が行われている。毎日の朝会、申し送り、更にカンファレンス会議などを通して、実践されたことについてお互いが考えをすり合わせ、修正も図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の告知など近隣の人と交流をはかっている。 地域の活動に参加することができるようになったが、日常的には交流できていない。	地域とのつきあいは活発に行われ、コロナ禍ではできなかった自治会の夏祭りへの参加、近隣の小学生の下校時の見守りなども再開されている。また、多世代参加型こども食堂やオレンジカフェを開催し、地域との結びつきを強められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	さんとめテラスを活用し、認知症カフェを開催し、入居者も参加して交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、事業所内での取り組み等開示・部門内で共有しているが、サービスに活かすことができていない。	運営推進会議は情報交換の場として活用され、市担当者、地域包括支援センター職員や民生委員さらに入居者本人にも参加いただいている。特に自治会代表や民生委員からの地域情報は、様々な面で役に立ち、事業所の運営にも反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域に向けた情報発信などが出来ていない。	県や市からの情報はメールで受け取り、事業所からは介護保険の運用やヒヤリハット、事故対応などが報告されている。また、生活保護者への対応についてもケースワーカーに相談され、情報共有と連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部会等でも話し合われ具体的に理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 他事業所と連携し、エレベーターや階段の施錠・解除を準備している。	入居者の目線に立って「良い例・悪い例」を動画にして研修を行い、不適切ケアについて職員全員で考えられている。また、他の階へエレベーターで入居者が移動できるよう鍵を開放し、周囲の職員がみんなで安全を見守るよう取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会の開催やケアや事故に関してカンファレンスを実施、虐待チェックリストの実施をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会を持っていないが、後見人との連絡は職員が実施できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重説などの読み合わせをおこない、十分に説明出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望を意見書や電話で受けることがあり、その都度管理者に報告し、改善できることは職員会議で話し合い、業務に活かしている。	ケアに関する要望、外出、外泊の希望など、入居者・家族の申し出には職員との話し合いも行われている。「麻雀がしたい」との入居者の要望には地域の麻雀クラブを探し、趣味が継続して楽しめるよう支援も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会などの職員会議で意見や話し合いをしている。	入居者が求めていること、職員の気づいたことや提案は管理者に報告され、何でも言い合える雰囲気作りがなされている。物価高騰による節約のアイデア、購入場所の変更など、職員から生活情報が出され、事業所運営に役立てられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート・特定技能の職員にも役割を持ってもらい、やりがいにつながるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量チェックの実施。 学習会・法人内の研修へ参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の同業者と毎月会議を行い、情報交換をしている。委員会を通じて衛生管理者、産業医などの多職種と働きやすい環境づくりの活動に参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係が築けるように、コミュニケーションをとっている。 訴えに対して目線を合わせて話を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に利用者宅へ訪問し、家族の困りごとや不安を確認している。家族からの要望を聞くこと以外に、現状の様子を伝えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学対応時に家族から困っている事、今の現状を聞き取りを行い、状況によって他サービスへとつなげている。本人の意志は確認できていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全員ではないが、お手伝いをお願いしたり関係が築けている。生活で出来る事を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事故報告などで連絡を取るが、共に支えていく関係は築けていない。 面会に制限があり、一緒に出来ない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話をしたり、近くを散歩したり支援につながるように努めている。 制限によりあまり出来ていないが、家族と連携し本人宅へ行く事が出来た。	昔の知り合いが会いに来られたり、隣接の施設を利用されている友人に会いに行くなど、馴染みの関係が継続されるよう支援されている。また、麻雀好きな入居者が、地域のクラブに通い、仲間との交流も継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方を近くにしたり、利用者同士の関わり合いを支援している。 席の近い人たちは仲間意識を持っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から連絡があれば、丁寧に対応したい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望にそえるように、無理に介助に入らないようタイミングを見て、人を変えてなど対応をしている。 話しをする時間を使って聞き取りをしている。	入居者と職員が1対1になる入浴時や散歩のとき、入居者の胸の内を聴いたり、話しやすい雰囲気づくりに心掛けられている。日頃からのコミュニケーションと信頼関係が大切にされ、得られた情報は他の職員にも共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と会話をして生活歴などを把握したが、共有出来ていない。 家族からの聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を残し、申し送りをする事で情報共有を行い、把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	特定の利用者は話し合いはされているが、全員はできていない。	「生協10の基本ケア」が入居者支援の基本指針となっており、ケアプラン作成にも反映されている。更に、モニタリングを通して、入居者の状態の変化を読み取り、チームケアの情報源とケアプランの見直しにつなげられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一部で記録や申し送りで開示され共有しているが、日々実践・見直しは出来ていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特技を活かして、利用者に喜んでもらえるように業務で取り組んでいる。 入居者の訴えに対して都度、対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣への散歩・散策など特に目的はないが、本人が楽しめるよう支援している。 体操教室・買物など地域の人とかかわりを持つように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診で体調管理をしている。	かかりつけ医には家族が同行され、普段の健康状態などを家族に伝達し、適切な受診に繋がるよう配慮されている。日常は往診医による定期的な健康管理がなされ、体調の変化や今後の予測などは事業所より家族に常に伝えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診・事故対応等に、日々の状態を医師・看護師へ説明し、入居者の変化を伝え、適切な受診に繋がれるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを作成し、施設内での情報を伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に少しでも安心していただくように、日々の状態を連絡・共有するが、地域関係者とは取り組んでいない。同法人内の老健、病院と連携し対応している。	重度化や終末期に際しては、「私の終末期意向書」により入居者・家族の意向をお聴きしている。状況に応じた更新も実施され、これを基本に家族の考え、医療の考えをマッチングすることで、今後の取り組みについても確認されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行われていないが、関係者から説明を受けたり、マニュアルを参考に急変や事故発生時に備えている。 フロー図をステーション内の壁に貼っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を受けているが、地域との協力体制は築けていない。	ハザードマップの確認が行われ、火災や地震について特に重視した災害対策が取られている。防災訓練も実施され、地元住民が参加しての訓練、隣接する老人保健施設との合同で地震に対する訓練も行われ、常に課題を明確にされている。	災害対策において、常に課題の見直しを図ることは重要と想定されることから、備品や設備について再点検を行うと同時に場所や使い方を知ることなどの訓練も実施されることに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや対応に気を付けて行っているが、後で考えると間違った対応・声掛けをしていると思うときもある。 丁寧な言葉使いを心掛けている。	入居者に事前に声をかけ、不安にさせないよう取り組まれ、言葉使いやプライバシーについて、事例をあげ不適切ケアの勉強会も実施されている。また、起床、就寝、入浴などは入居者個々の生活習慣に合わせるよう配慮もなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を聞くようにしたり、本人の行動を阻害しないように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ支援しようとしている。 人員不足の時は出来ていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援できていないことが多い。 ヘアスタイルを整えない状態でフロアに誘導していたり、汚れたままの服を着ている時もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自前調理がある日はあらかじめ好みのメニューを聞き取りしたり、食事の準備や片付けを一緒に行っている。	日常は味噌汁作り、お茶入れ、料理の盛り付けなどを入居者が手伝い、嗜好や形態などにもそれぞれに合わせるよう工夫がなされている。週1回の自前調理も継続され、入居者と一緒にメニューや食材を決め、買い物にも参加されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	決められたメニューに沿って、食事量や水分量・肉・魚別と食事形態を分けて提供している。 摂取量が少ない方に対して声掛けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行うが、拒否が強く出来ない利用者もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導だけでなく、利用者の行動に併せて声かけ誘導を行っている。	「トイレに座っていただく」「オムツは極力使わない」「その人のパターンに合わせた誘導」を基本に自立に向けた取り組みが行なわれている。寝たきりにならないよう職員が二人対応で支援も行われ、また、声掛けの気配り、工夫も図られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	家族に繊維質のものを用意してもらったり、医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する曜日は決められているが、本人の希望があれば曜日・時間を変えて支援している。	入浴は基本的には日中だが、要望に合わせて夜間や早朝の支援も行われている。入浴中は内緒の話をしたり、歌を歌うなどして楽しませ、洗身や入浴へのこだわりもそれぞれの自立度に合わせて対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人希望で支援しようとしているが、職員の都合で行う事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的は往診時に医師と確認している。しかし内服薬の副作用や用量については理解が乏しい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援しようとしているが、職員都合で行っていることもある。 声掛けで散歩等を行い気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物を職員付き添いのもと実施している。また希望に応じ対応している。	日常的には敷地内を職員や家族と一緒に散歩したり、近くのコンビニやスーパーに買い物にも出かけられている。また、家族の協力も得て、映画やお芝居を観に出かけたり、住んでいた家を見に行くなど、要望に合わせた支援が行われている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある時に買い物に行き支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合に電話を取り次いだり、手紙を投函したりと支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるように換気は行っている。また月日が分かるように手作りのカレンダーを掲示している。	入居者が集まる共用空間はガラス窓から日差しがあふれ、明るい環境が作られている。手摺りの設置や柱に緩衝材を使用するなど、入居者の安全にも気を付けた空間作りがなされ、また、一人で落ち着ける居場所も設けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なるべく相性が良い利用者同士を同じテーブルに用意したり、共用空間の配置は工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の状態にもよるが、家族・職員で決めることが多い。本人の希望を確認しつつ職員間で話し合っており、安全安心の空間であるように工夫している。	居室作りについては、個々のこだわりや習慣を大切に、ベッドの位置や高さなどもそれぞれに合わせて配慮されている。使い慣れたちゃぶ台や和ダンスが持ち込まれ、また、歩行時につかまれる場所を設けたり、電気コードが隠れるよう安全にも対応されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所の物品やポットなど手の届くところに置いてあるので、包丁やまな板、調味料なども使用することが出来る。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームさんとめ

目標達成計画

作成日: 令和6年4月18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	停電時など、災害対策として施設内の設備や備品の場所と使い方が部門内に周知されていない。	施設内の設備、備品のある場所、使い方を確認し、部門内職員が把握できるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・机上訓練で設備や備品の場所・使い方を確認する。・備品や設備の再点検をおこなう。・地域への声かけをする。・地域の人を呼んで机上訓練をおこなう。・地域の防災訓練に参加する。	10ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。